

## 令和3年度 飼料用イネ現地実証展示見学会次第

令和3年9月15日（水）10：30～  
（一社）日本草地畜産種子協会 九州試験地

【現地見学会の場所】 熊本県菊池市七城町

【展示品種】 つきはやか

### I 開会

### II 資料等の説明

資料1 極短穂茎葉型早生品種「つきはやか」の展示圃設置について

資料2 飼料用イネ WCS 専用の極短穂茎葉型品種の利点

資料3 飼料用イネ WCS 専用極短穂茎葉型品種の紹介

アンケート用紙

パンフレットの紹介——イタリアン・ソルガム・飼料用稲

### III 見学会及び意見交換等

## 資料-1

### 極短穂茎葉型早生品種「つきはやか」の展示圃設置について

○播種：5月22日、あらかじめ塩水選を実施

○移植田への基肥施肥：6月10日、N：P：K=7.5：1.8：1.8

○移植：6月23日、条間30cm、畝間48cm、㎡当たり13.9株

つきはやか

植え込み本数	葉齢	草丈	第1鞘高長
3.6本	4.3	29.3cm	2.8cm

つきはやか：移植苗



	最高分げつ期（8月2日）			出穂
	草丈	茎数	葉色	
つきはやか	94.8cm	22.1本（327本/㎡）	5.0	8月15日
夢あおば	87.4cm	26.1本（363本/㎡）	4.5	8月18日

○刈取：

（つきはやか）9月15日予定

（夢あおば）9月1日（乳熟期）

○つきはやか：生育状況（8月2日撮影）





○つきはやか：生育状況（8月25日撮影）



○夢あおば：生育状況（8月25日撮影）





# 飼料イネWCS専用の極短穂茎葉型品種の利点

(一般社団法人 日本草地畜産種子協会)

## 品種差による光合成模式図

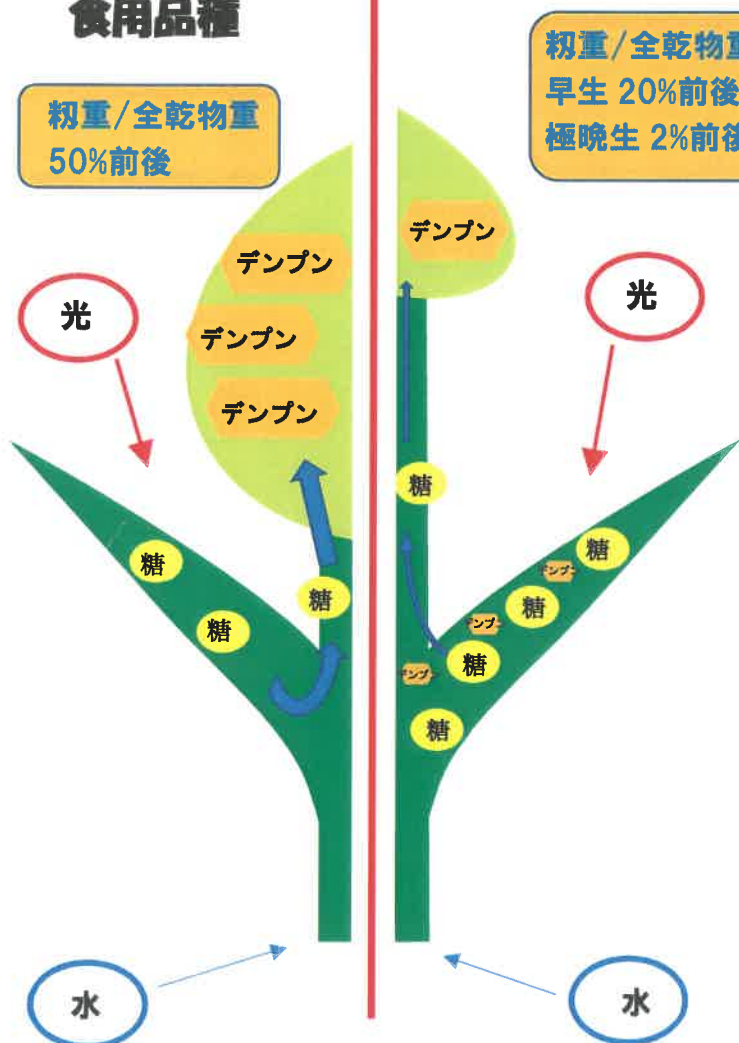
子実型品種

食用品種

籾重/全乾物重  
50%前後

極短穂茎葉型品種

籾重/全乾物重  
早生 20%前後  
極晩生 2%前後



極短穂茎葉型品種の特徴

- ・ **穂が少ない**
- ↳ 籾に栄養を取られない
- ↳ 茎葉の糖含量が高い
- ↳ サイレージ発酵が良好
- ↳ 熟しても糖含量が高い
- ↳ 倒伏しにくい
- ・ **籾が少ない**
- ↳ 籾排せつロスが少ない
- ・ 稈長が長い
- ↳ 茎葉の収量が高い



## 短穂型品種

早生 「つきはやか」

中生 「つきあやか」「たちあやか」

晩生 「つきすずか」「たちすずか」

極晩生 「つきことか」

※ 「つき」シリーズは精葉枯病抵抗性品種

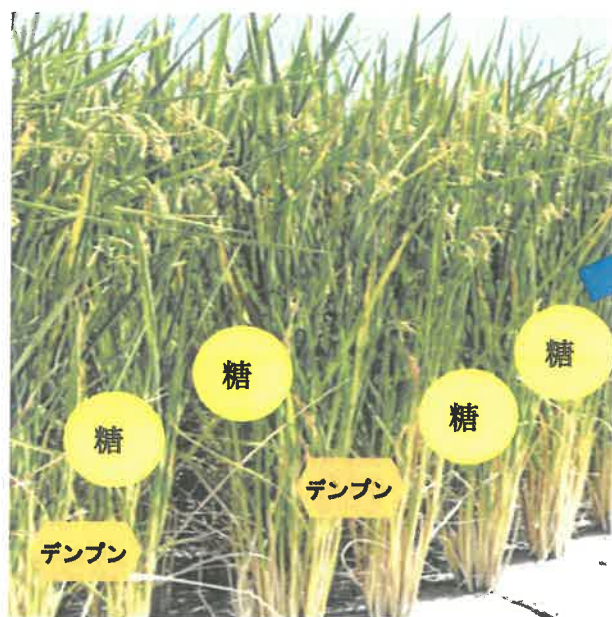
※ 晩生・極晩生品種は日長反応性が高い=早播きしても出穂が遅い

## 資料-3

# 飼料イネ WCS 専用極短穂型品種の紹介

●極短穂型品種は消化性・嗜好性に優れ、良質サイレージ生産が可能でず。

- 極短穂型品種は穂が短く籾の収量が極端に少ない品種です。
- 光合成された糖分が籾ではなく茎葉に蓄積されることなどから、**牛の嗜好性や消化率が高い**です。
- WCS の乳酸発酵が促進され、**飼料として長期間の保管が可能**です。



### WCS利用の特徴

乳酸発酵が促進される

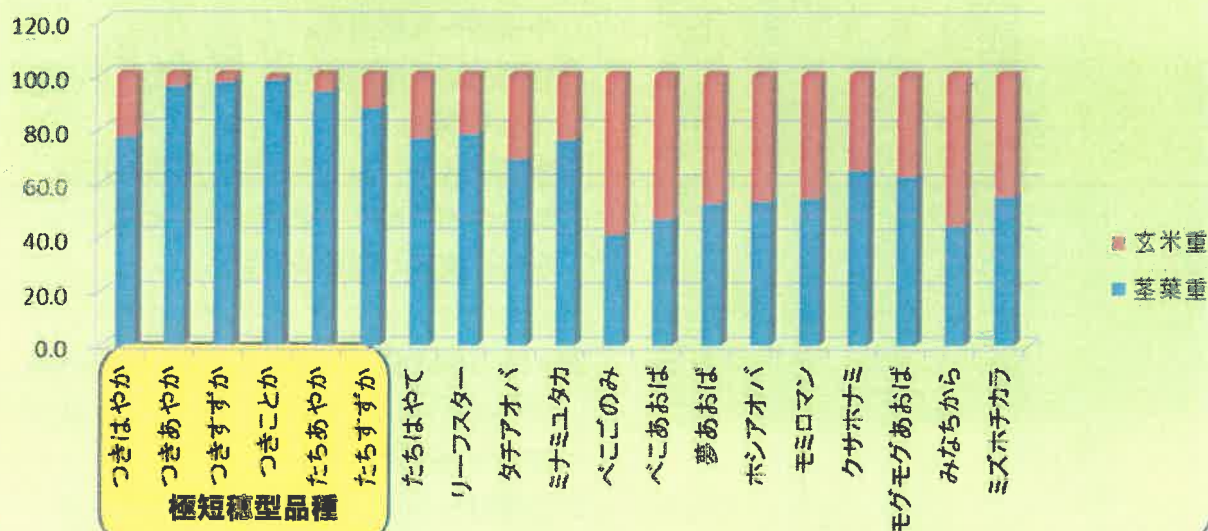


嗜好性が高くなる

消化性も高くなる

籾の排泄ロスも低下

品種別乾物全重に占める玄米重比(%)





海外持出禁止（公示(農水省 HP 参照)）

品種登録出願中

新発売

WCS用イネ品種

つきはやか

極短穂

早生（中国飼224号） 縞葉枯病抵抗性



【特徴】

- 暖地では「たちあやか」より12日程早い。
- 東北中南部以南～九州向き。
- 縞葉枯病抵抗性品種。
- 耐倒伏性は「たちすずか」並みの極強。
- 糖含量が「たちすずか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性が良い。

【栽培ポイント】

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- 収穫は十分な発酵品質を確保するため、出穂期30～40日以降が刈取り適期。

海外持出禁止（公示(農水省 HP 参照)）

品種登録出願中

新発売

WCS用イネ品種

つきあやか

極短穂

中生（中国飼225号） 縞葉枯病抵抗性



【特徴】

- 「たちあやか」より2日程早い中生で、東北中南部～九州向き。
- 縞葉枯病に抵抗性で、「たちあやか」の欠点を改良。
- 耐倒伏性は「たちすずか」並みの極強。
- 糖含量が「たちすずか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性が良い。

【栽培ポイント】

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- 収穫は十分な発酵品質を確保するため、出穂期30～40日以降が刈取り適期。

登録品種

海外持出禁止（公示（農水省 HP 参照））

WCS用イネ品種

# つきすずか

極短穂

極晩生 縞葉枯病抵抗性・高糖分・茎葉多収・耐倒伏性極強



### 【特徴】

- 極晩生で、関東以西、九州向き。
- 穂長は極短で、籾重は「たちすずか」より少ない。
- 稈長は高いが重心が低く、倒伏に強い。
- 縞葉枯病に強い。
- 糖分含量が高く、発酵品質及び嗜好性が期待できる。
- 消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低い。

### 【栽培ポイント】

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- WCS生産では、早植え、多肥栽培が有効。

品種登録出願中

海外持出禁止（公示（農水省 HP 参照））

WCS用イネ品種

# つきことか

極短穂

極晩生 縞葉枯病抵抗性・高糖分・茎葉多収



### 【特徴】

- 極晩生（9月末出穂）で東海以西～九州向き。
- 穂長は極短、籾重は2%程度で地上部はほぼ茎葉です。
- 収量は『たちすずか』より2割多収である。
- 晩植（6月下旬移植）でも籾重が増えず、麦後などの晩植栽培でも茎葉多収である。

- 縞葉枯病に強い。
- 糖含有率が高く、発酵品質及び嗜好性が期待できる。

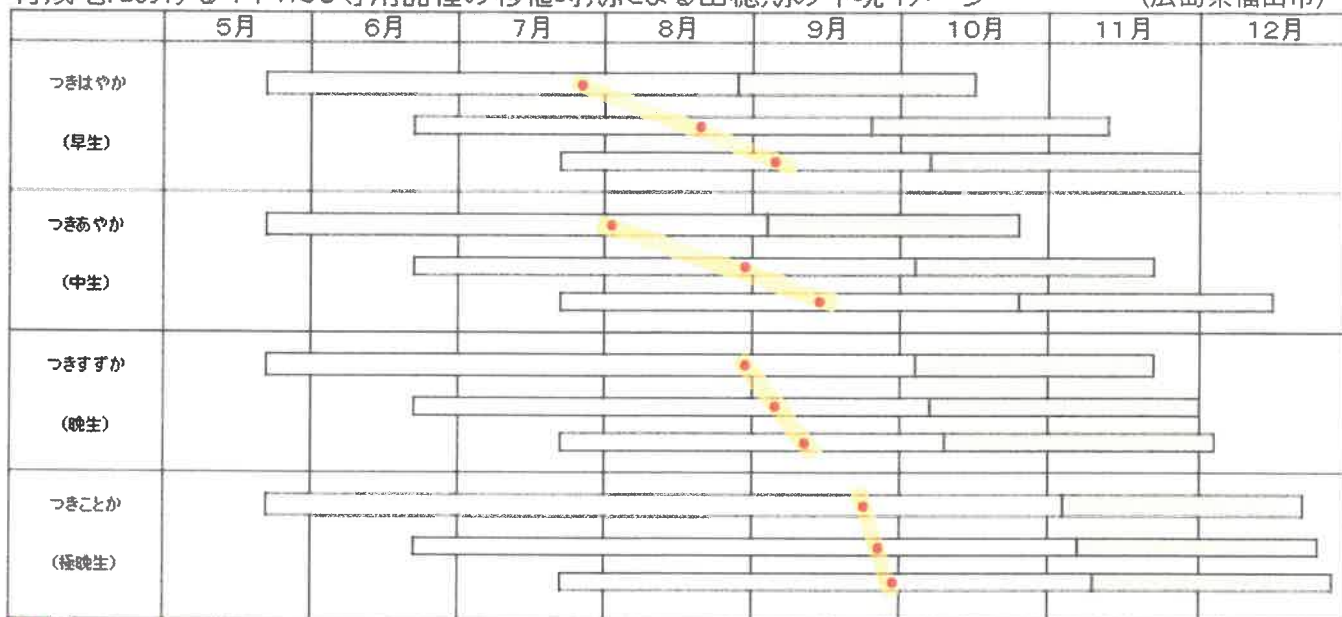
### 【栽培ポイント】

- いもち病に見かけ上は強いが、いもち病真性抵抗性が不明であるので、抵抗性の変化には注意を要する。
- 極長稈で倒伏のリスクがやや高いので、疎植や地耐力の確保に努める。

## ●栽培地域と移植時期に合わせて品種選択を！

育成地におけるイネWCS専用品種の移植時期による出穂期の早晩イメージ

(広島県福山市)



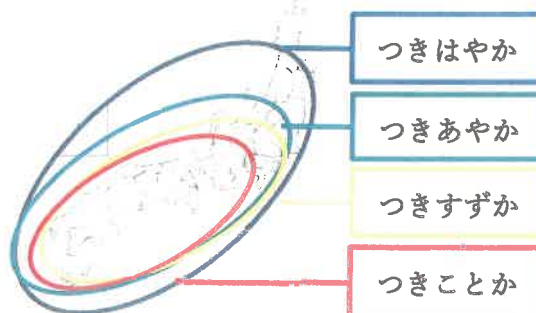
「つきはやか」、「つきあやか」は日長反応性(日が短くなったことを感じて花芽をつける性質)が弱いので、移植時期が遅れると、遅く開花(出穂)します。一方、「つきすずか」、「つきことか」は日長反応性が強いので、移植時期に関係なく、ほぼ同じ時期に開花(出穂)します。

晩生・極晩生の「つきすずか」・「つきことか」を早期播種すること生育期間を長く確保でき多収が得られます。

遅まきになってしまう場合は、日長反応性が低い「つきはやか」・「つきあやか」がお勧めです。

## ●精葉枯病の常襲地域では「つき〇〇〇」を！

「つきはやか」・「つきあやか」・「つきすずか」・「つきことか」の4品種は、精葉枯病抵抗性が“付いたこと”(付き)から『つき〇〇〇』と命名されました。**精葉枯病の常襲地域では、この4品種からお使いください。**



一般社団法人 日本草地畜産種子協会